



2022年3月15日
用具研究—関心のある分野

2021年2月1日にR&AとUSGAは3つの提案を含む「告知とコメント」を公表しました:

- (1) ローカルルールひな型(MLR)として利用可能とし、許容されるクラブの長さを46インチまでに減じる
こと;
- (2) 最適な打ち出し条件を用いるように、ゴルフボールのテスト方法を更新すること;そして、
- (3) ペンデュラムテストを用いた特性時間(CT)測定のテスト許容誤差の改正

2021年10月12日付の私たちの連絡の通り、私たちはクラブの長さを制限するために2022年1月1日から利用できるローカルルールひな型G-10を作りました。私たちは最適な条件を使うためのゴルフボールのテスト方法の見直しをするという提案、また、スプリング効果のペンデュラムテストのテスト許容誤差を減じるという提案を個別には進めないという決定を行いました。こうした2つの提案は下記で議論されるより幅広い見直しの一部としてさらに検討されることになります。

「告知とコメント」に加えて、R&AとUSGAは「関心のある分野(AoI)」の連絡を同日に公表しました。2021年2月1日付の「関心のある分野」では、「ディスタンスインサイトレポート」と「ディスタンスインサイトプロジェクトの結論:ゴルフにおける飛距離の影響」の結果に対処することを意図した潜在的な用具規則の変更に関連する一連の研究トピックを特定していました。

2021年2月1日付の「関心のある分野」に含まれていたトピックのために行われた研究結果は、今後数週間にわたって公表されるでしょう。

本日の「関心のある分野」の連絡は利害関係者に私たちの下記への関心をお伝えすることに役立ちます:

1. ゴルフボールを最も遠くに飛ばす人たちのクラブヘッド速度を反映するように、標準総合距離(ODS)の適合性の決定で用いられる打ち出し速度の増加を調査すること。その打ち出し速度は、少なくとも125mphのクラブヘッド速度を用いて決定されるでしょう。加えて、より速いクラブヘッド速度と併せて、最適な角度とスピンの条件を用いることもこの調査の一部として評価されるでしょう。
2. 2021年2月1日付の「関心のある分野」で示された研究トピックの焦点を絞るために、特にローカルルールひな型(MLR)という観点から、(i)ドライバーのスプリング効果を減じること、そして、(ii)中心でインパクトする恩恵を強化するためにドライバーの慣性モーメント(MOI)を変更することを研究すること。

1. ゴルフボールのテスト方法の潜在的な変更

2021年2月1日付の「告知とコメント」では、標準総合距離(ODS)のゴルフボールの適合性の決定に用いられる打ち出し条件を、ゴルフボールの実際の打ち出し条件(ALC)を用いる現行の方法から、境界内でのボールの最適な打ち出し条件を用いることになるテスト条件に変更するという提案がなされていました。

2021年2月1日付の「告知とコメント」では、ボール速度は、キャリブレーションドライバーをクラブヘッド速度 120mph でスイングしてボールを打つメカニカルゴルファーを用いて依然として決定されるということも提案されていました。さらなる研究に基づき、R&A と USGA は、最適化された条件を用いることと併せて、標準総合距離 (ODS) のボールの評価に用いられるクラブヘッド速度の増加を研究することに現在興味を持っています。

テスト速度の増加を検討する理由は、ゴルフでゴルフボールを最も遠くに飛ばす人たちのインパクト速度が継続的に増加していくことを反映するための過去のボールテスト速度の長い期間の増加パターンと共に、標準総合距離 (ODS) の歴史と当初の意図に根差しています。標準総合距離 (ODS) が 1976 年に当初採用されたとき、ゴルフボールとゴルフクラブ製造業者への告知では標準のための理由を下記のように規定していました：

「長年に及ぶボールとクラブの開発を通じて、多くのコースは陳腐化しつつあり、ボールが飛ぶ距離に影響する可能性のあるさらなる開発はこの傾向を継続させると思われ、【統括団体】はそうしたことはゴルフの拡大に -そして、実際にすべての経済レベルの人たちが楽しむことができるゴルフの存続にとって不健康と考える。不動産を伴い、毎年メンテナンスコストが増えるより距離の長いコースは、平均的な人たちにとってゴルフが高すぎるものになってしまうという結果になることでしょう。」

標準総合距離 (ODS) のボールのテスト条件が最後に更新されたのは 2004 年でした。そうした変更の詳細は 2003 年 7 月 3 日付の製造業者への告知で通知され、製造業者にはクラブヘッドのテスト速度は、当時のドライバーを最も遠くに飛ばす人たちのクラブヘッド速度をよりよく反映するために、109mph から 120mph に増加することが伝えられました。その告知では、統括団体はさらなるテスト方法の更新が必要であるかどうかを決定するために、用具とプレーヤーの変化を観察することも製造業者に告げられました。

現在、ゴルフボールを最も遠くに飛ばすドライバーでは、現行のテスト速度の 120mph を超えるクラブヘッド速度を達成しています。PGA ツアーの 2020-2021 シーズンのクラブヘッド速度の上位 10 名の平均は 124.8mph (ボール速度は 184.5mph) であり、彼らの計測された最大クラブヘッド速度の平均は 130mph (ボール速度は 191.5mph) を超えていました。

R&A と USGA は 2021 年 2 月 1 日付の「告知とコメント」で規定されていたものと同じ境界 (すなわち、打ち出し角は 7.5~15 度の間、バックสปิน量は 2200rpm~3000rpm の間) を使って、ボールの最適な打ち出し条件を用いる効果の研究も行います。2021 年 2 月 1 日付の告知への返答として受け取ったコメントに基づき、R&A と USGA はそうした境界を決定するときにゴルフボールのスピンの特性を組み込むことを調査します。

上記で述べたように、そのボールの総合距離がゴルフボールを最も遠くに飛ばすドライバーを代表する条件で最適化されるように、少なくとも 125mph のクラブヘッド速度で決定される打ち出し速度を検討することに興味を持っています。そうした条件でのテストで得られる値は、現行の制限である 317 ヤード + 現行のテスト許容誤差 3 ヤードに対してボールの適合性の決定に用いられるでしょう。

同時に、R&A と USGA はより遅いヘッド速度のレクリエーションゴルファーのイノベーションを促進する可能性のある分野の研究に興味があります。特に、標準総合距離 (ODS) の新しいテスト条件と併せて、R&A と USGA は初速 (IV) テストの廃止や修正の影響を理解することにも興味があります。

2. ローカルルールひな型ークラブのパフォーマンス特性

2021年2月1日付の「告知とコメント」では、スプリング効果のペンデュラムテストのテスト許容誤差の改正も提案しました。現行のペンデュラムテストプロトコルの許容誤差 18 マイクロセカンドは先行するキャンテストの許容値を複製するためにデザインされたものでした(2003年12月2日の連絡)。しかしながら、2003年11月に公表された「ペンデュラム技術解説書」で詳細が説明されているように、ゲージ分析の反復性と再現性ではペンデュラムテストの実際のテスト許容誤差は6 マイクロセカンドと決定されていました。

R&A と USGA はこの提案について多くのコメントを受け取りました。他のデータやインプットと同じく、そうしたコメントを考慮して、R&A と USGA は今回、許容誤差を減じるという提案を個別には進めないという決定を行いました。代わりに、現行のペンデュラムテスト許容誤差 18 マイクロセカンドを 6 マイクロセカンドに減じるという議題はドライバーのスプリング効果のより集中的な研究の一部として検討されることとなります。

この現在「関心のある分野」の連絡で、R&A と USGA はローカルルールひな型(MLR)という観点において、ドライバーの仕様により焦点を当て、下記についての興味も公表しています：

- ドライバーの許容されるスプリング効果(特性時間で定量化される)を減じること
- 中心でのインパクトの恩恵を強化するために慣性モーメント(MOI)を変更すること

こうしたトピックを検討することの一部として、R&A と USGA はそうしたローカルルールひな型(MLR)がエリート競技で採用された場合、レクリエーションゴルフのイノベーションを促進するために、レクリエーションゴルフについては慣性モーメント(MOI)の制限を廃止することが可能であるかどうかを検討します。

まとめ

この「関心のある分野」の連絡は2021年2月1日付の「関心のある分野」で示された研究トピックの焦点を絞ることに役立ちます。特に、私たちは標準総合距離(ODS)で用いられるクラブヘッド速度を増加させることを研究しており、ローカルルールひな型(MLR)の観点からドライバーのスプリング効果と慣性モーメント(MOI)を減じることを調査しています。

この「関心のある分野」の連絡で議論された研究トピックは厳密に「関心のある分野」です。可能性のある解決策について何も決まっておらず、現時点で何の提案も出されていません。この研究から生じる可能性のある規則変更についてのいかなる提案も、用具規則制定過程にしたがって連絡されることとなります。

この「関心のある分野」に関するコメントの締め切りは2022年9月2日となります。